

令和8年6月議会  
福祉都市委員会 参考資料

アジア美術館 魅力向上の検討状況について  
(経済振興委員会 報告資料)



経済振興委員会報告資料

アジア美術館 魅力向上の検討状況について

令和8年6月  
経済観光文化局

アジア美術館は、世界で唯一、アジアの近現代美術を系統的に収集・展示する美術館として先駆的な取り組みを行ってきた一方、その価値や魅力を十分に届け切れていないことから、令和5年度より魅力向上の検討を進めている。これまでの検討を踏まえ、拡充先を「警固公園地下」とし、魅力向上に向けた基本計画策定に関する検討を行っており、今回、市民意見募集の結果と、有識者会議等からの意見を踏まえ、とりまとめた基本計画(案)について報告するもの。また、今後、実施を予定している基本設計を対象とした公募について概要を報告するもの。

■ これまでのアジア美術館の魅力向上に向けた検討状況

- 令和6年 2月 経済振興委員会へ検討状況を報告(アジア美術館の現状と課題、課題解決の方向性)
- 令和6年 9月 経済振興委員会へ検討状況を報告(機能拡充の方向性、拡充先の条件整理)
- 令和6年 12月 経済振興委員会へ検討状況を報告(拡充先の土地の評価比較、警固公園地下駐車場の検証)  
⇒拡充先について、複数の候補地を評価比較した結果「警固公園地下」を選定
- 令和7年 6月 経済振興委員会へ検討状況を報告(魅力向上の基本的な方針案)
- 令和7年 12月 経済振興委員会へ基本計画の検討状況を報告(施設整備について)
- 令和8年 2月 経済振興委員会へ基本計画の検討状況を報告(基本計画(原案)について)
- 令和8年 4月 基本計画(原案)について市民意見募集の実施を開始(~5月)

1 基本計画(案)について

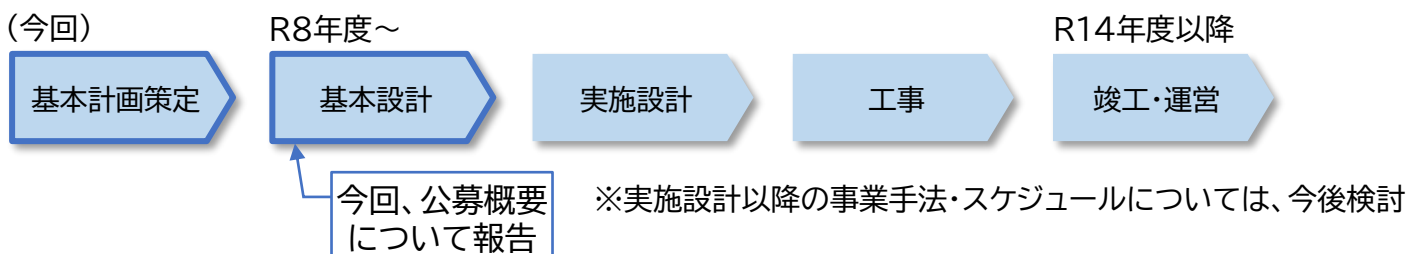
福岡アジア美術館 施設拡充等基本計画(2月議会において原案を報告。以下「基本計画」という。)については、市民等の意見を反映させるため、基本計画(原案)に対する意見を募集したところである。今回、その結果と、有識者会議等からの意見も踏まえ、**基本計画(案)**(参考資料4)としてとりまとめた。

- (1) 意見募集対象 福岡アジア美術館 施設拡充等基本計画(原案)
- (2) 意見募集期間 令和8年4月14日(火)~5月14日(木)31日間
- (3) 実施方法  
公表方法:アジア美術館(博多リバレイン7階受付)、情報プラザ(市役所1階)、情報公開室(市役所2階)、各区役所情報コーナー、入部出張所、西部出張所  
意見提出の方法:郵送、FAX、電子メール、窓口、オンライン(専用ホームページ)
- (3) 意見の提出状況 意見件数 49名、延べ150件
- (4) 意見への対応 原案修正 4件、原案どおり 40件、記載あり 54件、その他 52件  
※詳細は参考資料2、3のとおり

2 基本設計の手法について

※令和8年2月議会にて報告済み

これまでの施設拡充の検討や有識者意見等を踏まえて、設計手法について検討を行った結果、拡充先における施設整備の基本的な方針に沿った施設とするためには、より魅力的な建築・空間デザインが必要であると結論づけた。このことから、**基本設計を対象とした公募を実施し、多彩なデザイン提案を募る**こととした。



### 3 基本設計者選定の公募概要（案）について

#### (1) 公募概要（案）

- **対象事業** : 警固公園地下への福岡アジア美術館の施設拡充に係る基本設計業務
- **選定方式** : 公募型プロポーザル方式
- **所在地** : 福岡市中央区天神2丁目2番地 警固公園地下(旧警固公園地下駐車場)
- **設計の概要** : 警固公園地下の旧駐車場の構造躯体を活用しながら、美術館へ増改築する。
- **美術館の基本設計において求める視点**

美術館と地上の公園が一体となって、福岡の新たな顔として心地良く過ごせる文化的な空間を創出し、天神の文化的魅力を一層高め、また、多彩な体験価値を昼夜提供することで、多様な来館動機を創出し、より多くの市民や国内外の観光客が気軽に訪れ、アジア美術と出会い、気づく場となることを目指す。

そのため、整備にあたっては、基本計画(案)の「拡充先における施設整備の基本的な方針」を踏まえ、人々を惹きつけ、福岡の新たな顔としてふさわしい、高い意匠性を有する施設を整備する。また、公園との連携、一体化を図るとともに、アートとの出会いを演出する象徴的なエントランス等を整備する。

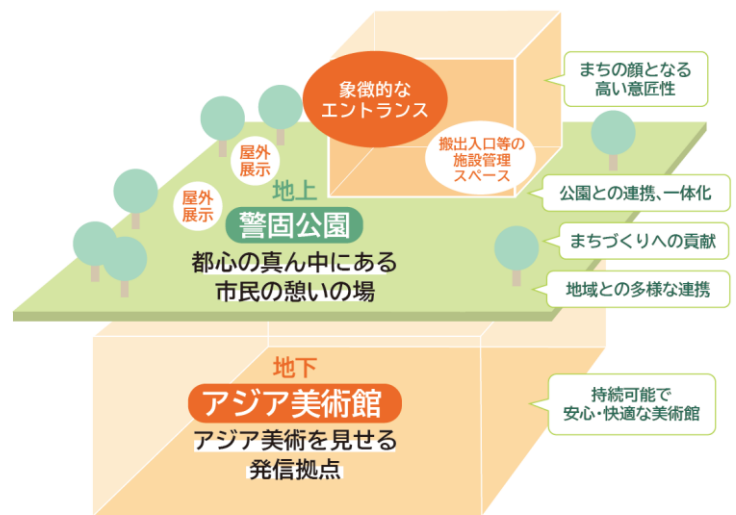
また、地下構造躯体の活用や緑化を維持した施設整備を実施することで環境保全を図り、持続可能なまちづくりに貢献する。

#### 拡充先における施設整備計画

※基本計画（案）より抜粋



拡充先(警固公園)現況図



美術館の整備イメージ図

#### 拡充先における施設整備の基本的な方針

まちをつなぎ、人をつなぐ福岡の新たな顔

- ①公園との連携、一体化
- ②まちの顔となる高い意匠性
- ③まちづくりへの貢献
- ④地域との多様な連携

持続可能で安心、快適な美術館

- ①環境への持続可能な配慮
- ②その他の視点  
＜快適に楽しめるユニバーサルデザイン＞  
＜人と作品を守る高い防災性＞

#### 公園等との連携の考え方

- ・公園と周辺に開放された動線やまとまった広場空間、見通し、みどり空間といった既存の公園機能等を確保する。
- ・既存機能(便所、駐輪場、安全安心センター)の継続を前提とした、公園の魅力や利便性の向上と、美術館の意匠性を両立する空間構成とする。

## ■ 想定規模

美術館の魅力向上を図るために必要な機能を配置し、各機能に必要な想定規模を次の通りとする。

### ゾーンの構成

※基本計画（案）より抜粋

#### ゾーンごとの目安規模と主な諸室のまとめ

ゾーン	規模 ※目安	主な諸室イメージ ※室名は仮称
展示ゾーン	約3,000㎡ うち ギャラリー2,000㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ギャラリー（映像ギャラリー含む）</li> <li>● 展示準備室</li> <li>● 一時保管庫</li> <li>● 搬出入口、トラックヤード など</li> </ul>
学び・体験ゾーン	約600㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多目的室</li> <li>● ワークショップ室</li> <li>● ボランティア室 など</li> </ul>
その他の美術活動ゾーン	調査研究 約150㎡ 美術交流（展示の一部）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資料室、ライブラリー</li> <li>● 滞在者用控室 など</li> </ul>
にぎわい・集客ゾーン	約1,500㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 魅力的な導入部分となる象徴的なエントランス</li> <li>● ミュージアムショップ</li> <li>● イベント等での飲食機能提供 など</li> </ul>
管理・運営ゾーン	約1,100㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事務室 など</li> </ul>
ユニバーサル関連の諸室	約200㎡	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医務室、授乳室 など</li> </ul>
その他	適宜	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設備関連諸室 など</li> </ul>

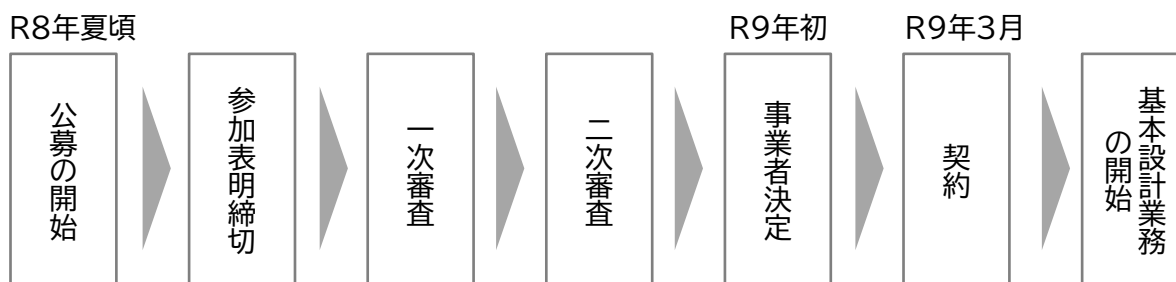
拡充先全体の床面積の目安は、7,500㎡～9,000㎡程度

## ■ 目安となる工事費（参考値） 約140億円程度

※近年の国内美術館の整備事例を参考に、都心部公園にある地下駐車場の活用といった本事業の特殊性を勘案し、令和8年3月時点での工事単価及び想定床面積等を用いた概算額（公園等の周辺整備に係る費用は除外）である。

※物価上昇等の外的要因に加え、今後の具体的な設計や施工計画の検討において変更となる可能性があり、基本設計の中で、選定した設計者ととともに工事費を積算していく。

## ■ 公募スケジュール（予定）



## (2) 公募に係る評価委員会の設置

公募要項、評価基準及び提案内容に対する評価について、専門的・学術的見地から意見を聴取するため、以下のとおり委員により構成する「アジア美術館施設拡充に係る基本設計提案評価委員会(以下「評価委員会」という。)」を設置しており、市は、本評価委員会での意見を参考に、公募要項や評価基準等の検討を進め、基本設計事業者を決定する。

### 【アジア美術館施設拡充に係る基本設計提案評価委員会 委員名簿（令和8年6月設置）】

専門分野	氏名	所属
建築	古谷 誠章	日本建築士連合会会長(R6-) (有)NASCA(ナスカ)一級建築士事務所
建築	松岡 恭子	(株)大央代表取締役社長 (株)ピングラス・アキツ代表取締役
景観・公共空間の デザイン	柴田 久	福岡大学工学部 社会デザイン工学科 教授
美術館運営	後小路 雅弘	北九州市立美術館館長(R3-)
美術館運営	堀川 理沙	ナショナル・ギャラリー・シンガポール キュレトリアル&コレクションズ ディレクター
行政(公園)	宮本 信太郎	住宅都市みどり局 みどり推進部長
行政(所管)	岩永 悦子	経済観光文化局 アジア美術館館長

(敬称略、順不同)

※公平性・透明性の確保の観点から、評価委員との接触等、公平な選定を損なう行為については、公募要項等において禁止事項として整理予定。

## アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議委員

- 西村 幸夫（國學院大學観光まちづくり学部長・教授）  
 建島 哲（京都芸術センター館長）  
 菅谷 富夫（大阪中之島美術館館長）  
 松岡 恭子（㈱大央代表取締役社長、スピングラス・アーキテクト代表取締役）  
 河野 まゆ子（㈱JTB総合研究所 執行役員 地域交流共創部長）（敬称略、順不同）

## 「第5回アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」議事概要

### ■ 市民意見募集の実施結果について

- ・このプロジェクトは、あまり似たような事例がないので、関心の高さが表れているのか、前向きで熱心な意見が多いように思う。
- ・これまでの議論と大きく異なる意見はない印象。計画完成後は、より多くの人々がこれを知ることのできる工夫をすると良いと思う。
- ・今回の意見募集のように関心が高いなら、これを一過性にするのはもったいなく、今後も事業の進捗を周知する機会があると応援団が増えていくのでは。
- ・本会議で出ていなかったアイデアも多く含まれており、この中からキーワードを抽出して傾向を把握することで、今後の計画の参考になるのではないか。
- ・意見を見ると、レジデンスやトリエンナーレ等、これまでのアジア美術館の活動が評価されていると感じた。これまでの取組みが理解されていることはこの事業の強みだと思う。

### ■ 基本計画(案)について

#### （第3章 アジア美術館の魅力向上の基本的な方針について）

- ・第3章第2節において、アジア美術を楽しむことだけではなく、その広がりや深みの部分をもう少し盛り込んでほしい。美術の向こうにある、アジアの地域の歴史や文化、社会的背景への理解を深められることもアジア美術の特徴であり、そうしたものに触れられる面白さは、この館の本質的な価値であると思う。
- ・アジアという概念は常に流動的で、今も大きく変化しつつある。拡充先の展示スペースが大きくなるのであれば、その流動性や概念の変化を取り入れた様々な企画や、何年かに1回、大規模な展覧会を開催するのもいいと思う。

#### （第6章 アジア美術館の管理・運営計画について）

- ・第3章で示されているように、アジア美術館の活動には多様な主体が関わるのが重要であり、管理・運営の考え方においても、職員以外の一般の方々が積極的に美術館活動に関わることができる仕組みを作ることを記載する必要があると思う。
- ・開館前からウェブサイトに進捗状況を発信することでワクワク感が増し、そうした発信から人々の関心を引き寄せていくことができるのではないか。市民をどう巻き込んでいくか、開館前からの活動も非常に大事だと思う。ファン層を集めていくために、ワークショップなどで市民に意見を挙げてもらおうと、今回の意見募集とはまた違った意見が出てくるので、効果があると思う。
- ・広報活動の充実とデジタル活用は分けて考えるべきだと思う。広報は、発信だけにとどまらず、美術館のファンとの相互のコミュニケーションの充実といった活動も入ると思う。
- ・現段階からデジタルの活用を意識して、建築、展示、運用の計画を連動させて、議論をしていくべき。様々な展開を想定した高度なデジタル環境を整えることが大事だと思う。

#### （第7章 事業手法について）

- ・ここで述べるのは事業手法だけではなく、市の姿勢を記載した方が良いと思う。整備面において、民間の知見も大事だが、市の中で土木、建築、公園、教育、文化などの分野に詳しい人材を横断的に集め、プロジェクトチームが形成されるような体制になることを期待したい。これらを踏まえた章題を検討した方がよい。
- ・新築ではなく、前例のない難しい面も考えられる事業で、想像できないような問題が発生する可能性があり、途中で変更ができる、柔軟に対応ができるような仕組みにする必要がある。

市民意見募集の実施結果について

1 意見募集期間

令和8年4月14日(火)～5月14日(木)31日間

2 実施方法

(1) 公表方法

アジア美術館(博多リバレイン7階受付)、情報プラザ(市役所1階)、  
情報公開室(市役所2階)、各区役所情報コーナー、入部出張所、西部出張所

(2) 意見提出の方法

郵送、FAX、電子メール、窓口、オンライン(専用ホームページ)

3 意見の提出状況等

(1) 意見件数

49名、延べ150件

(2) 意見への対応

原案修正:4件、原案どおり:40件、記載あり:54件、その他:52件

※詳細は参考資料のとおり

4 意見の概要と対応方針

(1) 総論

意見要旨	意見への対応と考え方
<p>基本計画の内容は素晴らしいと思うので、以下の点を要望して、より一層世界から注目されることを期待している。</p> <p>①所蔵作品を学校や大学等に貸与。 ②アジアの各美術館と連携を深めると良い。 ③企業との協賛でアーティストを表彰。 ④アートを市民活動の柱とする。 ⑤アート体験して友だち作りができる仕掛け。</p>	<p>《その他》 市民の財産である作品の貸与については、保存環境や警備体制の確保といった条件がありますが、頂いた5つの視点は、当館の活動に資するアイデアとして、他のご意見と合わせて総合的に検討させていただきます。</p>
<p>全体として、現状の課題と拡張計画はわかるが、福岡アジア美術館を今後どうしていくべきかという将来的な「計画」には未だ至っていない内容になっている。</p>	<p>《原案どおり》 本計画案は拡充先の枠組みを定めるものであり、ご指摘いただいた点につきましては、別途整理してまいります。</p>

(2) 第1章 アジア美術館の現状と課題

意見要旨	意見への対応と考え方
<p>強みを活かすためにも、トリエンナーレを復活させてはどうか。都市型の芸術祭を定期的に行うことによってこの取り組みの有効性が増したり、市民や観光客の認知も向上するのではないかと考える。</p>	<p>《記載あり》 本編22ページの「企画展示等に関するもの」において、アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催について記載してその重要性は認識しており、そのあり方を含め、アジアの美術拠点にふさわしい発信を検討してまいります。</p>

意見要旨	意見への対応と考え方
福岡アジア美術館の基本理念は、2004に更新されて以降20年以上に渡り変わっていないが、その間世界は劇的に変容し、アジア美術を取り巻く環境についても大きく変化している。今回の計画を機に、基本理念の見直しを検討してもよいのではないか。	《原案どおり》 基本理念は当館のアイデンティティとして維持し、今回は見直しの対象とはしていません。変容するアジア美術への対応は、拡充先での展示手法や交流事業のアップデートを通じて図ってまいります。
美術交流について、アーティストが作品制作のために街中に出向き、市民との交流を行ったこと、ワークショップも館内だけでなく、学校を含め館の外でも実施していたことは「強み」として強調したほうがよい。	《修正》 ご指摘のとおり、ご趣旨を踏まえ、文言を以下の通り修正しました。(5ページ) <修正前> ・アーティストによるワークショップ <修正後> ・アーティストによる館内外でのワークショップ

### (3) 第2章 福岡市における文化芸術振興とミュージアム

意見要旨	意見への対応と考え方
最近の福岡市は、心の豊かさを重視していると感じている。天神は働く人が多いので、美術館で心の安らぎを得られれば良いと思う。	《原案どおり》 アートの魅力等によるWell-beingの向上について記載しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
文化芸術の顔にとどまらず、福岡市の顔となるよう頑張っていたきたい。	《その他》 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

### (4) 第3章 アジア美術館の魅力向上の基本的な方針

意見要旨	意見への対応と考え方
子ども、親子、教育関係者、高齢者、障がいのある方についても受動的な活動を提供するところではなく、能動的に、主体となって活動を作って行けるような場として欲しいと考える。特に子どもについては10年後の文化創造の担い手として、深い関係を築いてもらいたい。	《記載あり》 本編16ページの「これからのアジア美術館が提供するもの」において記載して、社会参加ができる場等と記載してその重要性は認識しており、誰もが主体となって活動していける場となるよう、努めてまいります。
・展示されている国の文化を食から学ぶイベントを開催すると、多様な面でアジアへの理解が深まるのではないかと提案する。 ・東南アジアの食と文化に焦点を当て、回遊性を意識したイベントを長期的目線で開発していけば、街全体が参加できる面白いものができるのではないかと提案する。	《記載あり》 本編25ページの「アジア美術を核とした人々の交流に関するもの」において、アジアの文化や食を通じて人々が交流するイベントの企画・実施を記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
美術はなんとなくハードルが高く感じて美術館に行くこともなかったので、アジア美術と気軽に会える場というコンセプトは良いと感じた。	《その他》 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

(5) 第4章 アジア美術館が担う機能と役割

意見要旨	意見への対応と考え方
段階的な人材育成には時間を要する為、国内外へのネットワーク構築も視野に入れ、他館が行っている海外や外部からの学芸スタッフ受入も必須。	《記載あり》 本編23ページの「調査・研究に関するもの」において、研究者や学芸員の招へいなどを記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
学術的シンポジウムや講演会をライブ配信するなどの広報も必要であり、専門のスタッフも必要。過去のアーティストトークや秘蔵映像のアーカイブ映像の配信も行ってほしい。	《記載あり》 本編50ページの「広報活動の充実・デジタル活用」において、デジタルアーカイブ化について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
現館が拡充先に比べ、新しい目玉（ビジョン）が見えてこない。拡充する天神の施設とどういう連携をするのか、もっと掘り下げてほしい。	《原案どおり》 いただいたご意見を参考にして、現館のさらなる魅力向上に向けた具体的な取組みについて、今後検討してまいります。

(6) 第5章 拡充先における施設整備計画

意見要旨	意見への対応と考え方
警固公園との一体整備について、若者やホームレスの方々の居場所を奪わないようにしてほしい。排除の論理はアートとは真逆にある。	《原案どおり》 市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出してまいります。
日光が人に与える影響は大きい。学芸員や事務職員はもとより、看視スタッフやボランティア、アーティストが活動する場所などは日光があたるよう配慮を強く望む。	《記載あり》 本編39ページの「警固公園地下部の考え方」において、採光の工夫について記載してその重要性は認識しており、スタッフやアーティストが健やかに活動できる空間構成を目指し、設計上の配慮に努めてまいります。
地下施設という特性上、豪雨や高潮に備えた止水板や防水扉の設置、重要設備の地上配置など、万全の防災対策を求める。	《記載あり》 本編46ページの「浸水対策の考え方」を記載しており、その重要性は認識しております。
「まとまった広場空間」は、単にフラットな部分だけをさすように見える。周辺のベンチなどの憩いの空間も含めた広場空間とすべき。	《修正》 「まとまった広場空間」については、フラットな部分だけを指すものではございませんので、以下の文言を追記しました。(36ページ) <追記> ※広場空間には周辺のベンチ等も含む
敷地内に車いす利用者用駐車場を整備するとあるが、一般用の駐車場はどうするのか。公園は市民の貴重な憩いのスペースであるため、一般用駐車場は設けないでいただきたい。	《修正》 市は附置義務条例の特例等により都心部への自動車交通を削減・抑制する取り組みを進めていることから、以下の文言を追記しました。(46ページ) <追記> ・天神中心部における交通混雑緩和を図る取り組みを踏まえ、一般用の駐車場については、隔地での確保を基本とします。

(7) 第6章 アジア美術館の管理・運営計画

意見要旨	意見への対応と考え方
インフルエンサーだけでなく、一般のファンをアンバサダーとすることで広報に寄与するのではないか。	《記載あり》 本編50ページの「広報活動の充実・デジタル活用」において、SNS等を活用した広報について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
広告収入などで収入確保に努めるとあるが、公共施設の在り方として、来場者や地域の企業、団体、一般市民から広く寄付を募る努力も必要ではないか。	《原案どおり》 多様な財源確保は、健全な運営に不可欠であると認識しており、いただいたご意見を参考に、検討してまいります。
開館時間の拡張について、公園利用時間との連動は理解できるが、夜間の常時開館には慎重に検討を進めるべき。常態化する場合は十分なセキュリティ体制が不可欠。頻度やスペースの限定とそのルール化、監視体制の強化、安全管理の具体化を計画段階で明示すべき。	《記載あり》 本編50ページの「安心安全の確保・効率的運営」において、万全なセキュリティ体制を確保すると記載してその重要性は認識しており、いただいたご意見を踏まえ、監視体制の強化や利用ルールの周知徹底など、検討してまいります。

(8) 第7章 事業手法

意見要旨	意見への対応と考え方
官民の役割分担イメージに民間のノウハウ活用とあるが、民間とはどういった対象なのか、イメージが浮かばない。対象となる民間団体に関して、もうすこし、具体的な例を示してほしい。	《原案どおり》 多種多様なパートナーを想定しており、今後の事業手法の検討の中で具体化してまいります。
事業手法の特徴の書き方を揃えた方がわかりやすくなるのではないか。	《修正》 他の方式の特徴の書き方と合わせ、文言を以下の通り修正しました。(53ページ) <修正前> ・民間事業者が資金を調達し、施設建設後、公共に所有権を移転して、民間事業者が維持管理、運営する方式。 <修正後> ・資金調達は民間が行い、設計、工事、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。

「福岡アジア美術館 施設拡充等基本計画」(原案)に対する市民意見一覧と対応案

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
1	全般	基本計画の内容は素晴らしいと思うので、以下の点を要望して、より一層世界から注目されることを期待している。 ①所蔵作品を学校や大学等に貸与。 ②アジアの各美術館と連携を深めると良い。 ③企業との協賛でアーティストを表彰。 ④アートを市民活動の柱とする。 ⑤アート体験して友だち作りができる仕掛け。	▽その他	市民の財産である作品の貸与については、保存環境や警備体制の確保といった条件がありますが、頂いた5つの視点は、当館の活動に資するアイデアとして、他のご意見と合わせて総合的に検討させていただきます。
2		全体として、現状の課題と拡張計画はわかるが、福岡アジア美術館を今後どうしていくべきかという将来的な「計画」には未だ至っていない内容になっている。	□原案どおり	本計画案は拡充先の枠組みを定めるものであり、ご指摘いただいた点につきましては、別途整理してまいります。
3		原案全体を通して賑わい創出のために警固公園地下の再利用ありきでアジア美術館の拡充先が決められているとしか思えない。長く親しまれてきた福岡アジア美術館の現在地での一体的なりニューアル及び拡充とさらなる機能充実を望む。	□原案どおり	それぞれの拠点が独自の強みを発揮できるよう、準備を進めてまいります。
4	第1章	大人向けの対話型鑑賞や、アジアの社会問題をアートを通じて学ぶセミナーを定期開催してほしい。	○記載あり	講座やセミナー等のイベントについて記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
5		大型作品やインスタレーションが増加している現状を踏まえ、計画通り4～5m以上の天井高が必要だと思う。	□原案どおり	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
6		福岡アジア美術トリエンナーレは素晴らしかった。アジア美術館の収蔵品の一部を天神の各ビルの一角に貸し出し、スタンプラリー等を行うことで、アートフェスタの賑わいが生まれ市にも企業にもメリットがあり、ヘルスチャレンジにもなると思う。企業から作品貸し出し料を寄付して貰うことで、福岡アジア美術トリエンナーレが復活できればなお嬉しい。	○記載あり	アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催について記載してその重要性は認識しており、質の高い国際展の実現に向けて、財源確保を含め尽力してまいります。
7		福岡アジア美術館の基本理念は、2004年に更新されて以降20年以上に渡り変わっていないが、その間世界は劇的に変容し、アジア美術を取り巻く環境についても大きく変化している。今回の計画を機に、基本理念の見直しを検討してもよいのではないか。	□原案どおり	基本理念は当館のアイデンティティとして維持し、今回は見直しの対象とはしていません。変容するアジア美術への対応は、拡充先での展示手法や交流事業のアップデートを通じて図ってまいります。
8		2014年以降の停滞(トリエンナーレ中止、広範な現地調査なし、研究者招聘なし)はなぜなのか、そこを踏まえて議論しないと同じことを繰り返してしまう可能性があるのではないか。ここ数年行われているFaNの現状総括も合わせて実施することが必要だと考える。	▽その他	これまでの成果と課題も含め、多角的な検証を行い、持続可能な運営体制の構築に繋げてまいります。
9		強みを活かすためにも、トリエンナーレを復活させてはどうか。都市型の芸術祭を定期的に行うことによってこの取り組みの有効性が増したり、市民や観光客の認知も向上するのではないかと考える。	○記載あり	アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催について記載してその重要性は認識しており、そのあり方を含め、アジアの美術拠点にふさわしい発信を検討してまいります。
10		現館のスペースが広くはないのは同意するが、理念に直接結びつかない展示が多すぎるのが問題ではないか。新館については、形だけでなく中身についても、いつ行っても充実のコレクションをたくさん見ることができるといのが重要だと考える。	□原案どおり	今回の拡充により、いつ来館しても質の高いアジア美術に触れられるよう、検討を重ねてまいります。
11		「美術交流」について、アーティストが作品制作のために街中に出向き、市民との交流を行ったこと、ワークショップも館内だけでなく、学校を含め館の外でも実施していたことは「強み」として強調したほうがよい。	■修正	ご趣旨を踏まえ、文言を以下の通り修正しました。  <修正前> ・アーティストによるワークショップ  <修正後> ・アーティストによる館内外でのワークショップ
12		(6) 当館を取り巻く情勢について、「アジア美術」が一般化し、「福岡アジア美術館」が希少性のみで注目されることはなくなった、ということ付記し、そのうえで、同館の収集作品の幅広さ、レジデンスを中心とした交流事業はあまり例がない、という点を強調したほうがよい。	□原案どおり	本計画案では、情勢の変化を客観的に示すことで、今後の改革の必要性をお示す構成としており、強みの打ち出しについては、今後の具体的な交流事業の展開の中で表現していくことといたします。
13		拡充することが本計画の目的なので、「(7) 施設の拡充について」という項目を一番頭に持っていき、その後に理由をつけた方が納得がいく。	□原案どおり	本計画は、これまでアジア美術にあまり触れてこなかった方にもご理解いただけるように編成しております。
14		スクールプログラムの半数は、現状ボランティアによる対話型鑑賞にて対応。原因としては、教育普及担当専門職員が在籍していないこと。教育普及担当者のネットワーク構築もされていない現状があり、教育普及専門職員の配置は必須。	▽その他	教育現場や参加者との継続的な関係を築くためにも、専門的な知見を持つ体制のあり方について、今後の運営計画において検討してまいります。
15		弱みに高齢者向けプログラムがないとあるが、現在活動しているボランティアは高齢者・後期高齢者もいるため、その活動もプログラムと考えられるのではないか。高齢者だけでなく、学生ボランティアスタッフの登用など、ボランティア活動もプログラムの範疇という項目・範囲も見直しが必要。	▽その他	ボランティア活動の捉え方という大事な視点をいただきましたので、ご意見は今後の活動の参考にさせていただきます。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
16		新施設建設で税金を使う目的は『弱み』を解決することが第一だと考える。本計画は必要性が曖昧なまま無理やり図表と長い文章で紙面を稼いでいるように私は見える。やや不便な大濠公園にある市美術館に比べ現アジア美術館は中洲川端駅直結、天神博多駅間周遊圏内にあるにもかかわらず閑散なこと多々で残念。なので現施設の展示と企画をより充実しより多くの人に来てもらうため、例えばリバレイン壁に大きく『アジア美術館』と案内、企画展の看板を掲げる等、現施設でできることを頑張してほしい。あと再建中の県美術館と合同も考えてはどうか。新施設が必要な理由に納得ができず、計画を止めた方がよいのではないかと。	□原案どおり	拡充先の検討は、現館をさらに活性化させるための機能の分散と拡張も目的としており、ご指摘のような運営の質そのものを高めるための体制整備もセットで進めていくものです。他館との連携も含め、頂いた視点を今後の議論の参考とさせていただきます。
17		市民や観光客にとって、「わざわざ行かなければならない場所」、「気軽な気持ちで日常的に訪れる施設とは認識されていません」という断定の根拠は何か。国際空港から傘をささずに1本の路線で美術館に行けるという、世界的に唯一といえる便利な場所。「わざわざ行かなければならない」のは福岡市美術館の方だったりする。現館の位置的課題はリバレインそのものの運営、経営に原因があると思われる。警固地下館ができた時に、川端館がコレクションや研究の中核として機能するだけでなく、展示機能を有するのならば、もう少し丁寧に位置関係の強み・弱みの分析を行い、それぞれの未来像の強みに繋げた方がよいと思う。	□原案どおり	ご質問の根拠につきましては、令和5年度に実施した調査に基づき、市民の皆様の主観的な認識として議会にも報告させていただいたものです。拡充先と現館が、それぞれの立地上の強みを補完し合えるよう、検討してまいります。
18	第1章	設備の老朽化は、福岡市美術館のように全面的なリニューアルを検討すればよいのではないかと。展示スペース不足、収蔵スペース不足については、リバレインの9階以上の上層階の買収を含めた増床による美術館機能の再編で対応できるのではないかと。将来的に収蔵スペースが不足するなら、他の市有地等に新収蔵庫を別に建設すればよい。認識不足については、広報不足に尽きる。その方法は資金さえあればいくらでも可能。むしろ現在のリバレインビル全体の来館者の落ち込みのほうが気になる。	□原案どおり	ご提案いただいた代替案については、計画策定の過程で比較検討を行ってまいりました。その上で、警固公園地下に既存の躯体を活用して拡充先を展開することとしております。本事業は市議会においても議論され、承認を得た上で進めているものです。いただいたご視点も踏まえつつ、事業を推進してまいります。
19		全面移転なら分かるが、2館に分館よりも現リバレインの上層階への拡大拡充が最も合理的だ。警固公園地下に新館として分離することには反対である。2館体制は結果的にアジア美術館の不均衡と現館の衰退を招く恐れがある。	□原案どおり	現館を疎かにするものではなく、機能を分担させるものでもあり、不均衡が生じないよう、本計画を推進してまいります。
20		現館は、地下鉄中洲川端駅に直結し、福岡空港とJR博多駅からもわずかな時間で「雨にも濡れずに」「大きな荷物を持って気軽にいける」美術館として親しんでいる人が多い。少なくとも国内外のアート関係者、アート好きの観光客には大切に認識されている。市民に認知されていないのは、長年、広報戦略がアップデートされていないことが大きいと考える。拡充施設に関して「気軽に」は良いが、文化教育施設というより、集客施設／イベント施設として構想されているように感じる。	□原案どおり	集客だけでなく、文化教育施設としての本質を大切にしながら、市民に誇りに思ってもらえる美術館づくりに努めてまいります。
21		アジア美術の本質はなんだと考えているのか、しっかり記載がほしい。原本ではこれまでの取組みやアジ美の理念は書かれているが、概要版では省略されすぎていると思う。具体的に、アジア美術のなにかが素晴らしくて拡充すべきなのか伝わらない。それが「イベント施設を作ろうとしているのでは」という印象に繋がる。	□原案どおり	概要版の読みやすさを確保しつつも、拡充の背景にあるアジア美術の素晴らしさという本質的な視点を欠かさないよう、今後の資料作成や説明の場において反映してまいります。
22		開館当初より、展示やレジデンス関連のイベント告知等が非常に遅く、発信の手段や機会もごく限られていたと記憶している。周辺には博多座などの文化施設や大手ホテルが経営されており地下鉄駅の真上という立地にも関わらず、認知されていなかったのは美術館に独自のコンセプトや戦略的な広報の部署がなかったことも大きな要因ではないかと。施設を支える基本的人材が美術館内不足していた現状があったにも関わらず、施設を拡張した後も高い集客力を担保できる人材が確保できるのか、大きな課題であろうと思う。	○記載あり	広報活動の充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
23	第2章	最近の福岡市は、心の豊かさを重視していると感じている。天神は働く人が多いので、美術館で心の安らぎを得られれば良いと思う。	○記載あり	アートの魅力等によるWell-beingの向上について記載しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
24		文化芸術の顔にとどまらず、福岡市の顔となるよう頑張っていたきたい。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
25		展示されている国の文化を食から学ぶイベントを開催すると、多様な面でアジアへの理解が深まるのではないかと。	○記載あり	アジアの文化や食を通じて人々が交流するイベントの企画・実施を記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
26	第3章	SNSで見る写真につられてくる人が増えるよう、映えるフォトスポットを戦略的に配置してほしい。	○記載あり	SNS等を活用した広報について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
27		アジア各国の踊りのワークショップをアジア美術館に組んで頂き、どんたくに参加することで、福岡の祭り文化の維持に関わって頂けたらと思う。そうすることで、市民のどんたくへの興味や参加も増え、異文化交流のシンボルとして、どんたく港祭りとアジア美術館がともに発展できればと思う。	▽その他	現在もアジア各国の一部のコミュニティがどんたくに参加されており、各コミュニティの自律的な活動を尊重しつつ、アジア美術館がどのように関与できるか、ご意見を今後の参考にさせていただきます。
28		各「実現に向けた取組み」(案)がこれまでアジア美術館が行ってきた取組みとどう違うのかわからない。同館の活動を知る人間にとってはすでにやっている、という印象。アジ美を知る人、知らない人両方が進化したと思える内容が欲しい。	□原案どおり	計画にある取組みの中にはこれまで培ってきた活動も含まれていますが、今回の拡充により、魅力向上に努めてまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
29	第3章	美術館の方向性について、これからの美術を学ぶ学生について必要なものは西洋美術史、日本美術史よりはむしろ「アジア現代美術史」だと考えている。それを日本の地方の美術大学のみならず、アジア各地に広げてゆくミッションがあると考えます。それは、アジアの現代美術史において、作家がその時々に、それぞれの国や地域の歴史や風土、政治などの状況に切実に向き合ってきた結果の芸術表現として試行錯誤してきた態度の痕跡だからです。人間中心の西欧の価値観に対するカウンターとしてあった時代から、大量消費、都市化、環境、災害、デジタル技術の変化において作家がどのような態度を示し、どのような方法で表現を試みてきたのかという深い背景があり、それを深め、探求してゆくミッションがあるように思う。	▽その他	次世代を担う学生やアジア各地の人々の学びの場としての役割について、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
30		子ども、親子、教育関係者、高齢者、障がいのある方についても受動的な活動を提供するところではなく、能動的に、主体となって活動を作って行けるような場として欲しいと考える。特に子どもについては10年後の文化創造の担い手として、深い関係を築いてもらいたい。	○記載あり	これからのアジア美術館が提供するものとして記載してその重要性は認識しており、誰もが主体となって活動していける場となるよう、努めてまいります。
31		現在のアジア美術館でも、集客力アップのため7階を部分的に改装し、キッズスペース、カフェ、ライブラリーにした為、大型作品を展示するスペースが欠乏している。集客を優先するあまり、作品の展示という美術館の根幹の事業が妨げられないような施策が必要と思われる。	▽その他	集客機能と作品展示という美術館の根幹が相反することのないよう、十分な展示・制作空間の確保と適切な機能配置について、慎重に検討を重ねてまいります。
32		建物のコンセプトはまだ先だとは思いますが、他館のようにコンセプトだけでワックするような美術館になれば良いと思う。	▽その他	ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
33		美術はなんとなくハードルが高く感じて、なかなか美術館に行くこともなかったため、アジア美術と気軽に出会う場というコンセプトは良いと感じた。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
34	第4章	絵が苦手だったので美術の授業は面白くなかったが、絵を見ることは好きだったので、スクールプログラムを充実させてほしい。	○記載あり	拡充後の活動としてスクールプログラムを記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
35		仕事帰りや宿泊客が夜のアクティビティとして利用できるようにすることで、滞在型観光を促進できるようにするため、週に数日など21時頃までの夜間開館を恒常化することを検討してほしい。	○記載あり	ターゲットに合わせた開館時間について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
36		ボランティアの多国籍化を検討してほしい。	▽その他	多角的な視点からアジアのアートを伝えられるよう、多様な人材が活躍できるコミュニティづくりに努めてまいります。
37		クワイエット・アワーの設定をして、感覚過敏の方や、静かに鑑賞したい方向けに、照明を落とし音を絞る専用時間を設けてほしい。	○記載あり	障がい者の特性にあわせたプログラムの充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
38		アジアのDJが、その日の天候や客層に合わせて館内の音をプロデュースするのはどうか。	▽その他	静かに鑑賞したい方への配慮を前提として、特定の空間において、五感を刺激する現代的なアート体験を創出する手法として参考にさせていただきます。
39		アジアが直面する環境問題をテーマにした特別展を定期開催するなど、多角的な面からアジアに興味を持てるようにしてほしい。	▽その他	作品鑑賞を通じてアジアの現実をより身近に感じ、議論のきっかけとなるような展示のあり方を検討してまいります。
40		ワンピルなどの周辺施設や川端通商店街の店舗に作品を展示するなど、街全体を美術館にしてほしい。	○記載あり	周辺施設との連携について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
41		閉館後のスペースをパーティーや企業イベントに貸し出し、収益を次世代育成に充てるといった夜の美術館貸切プランをやってほしい。	○記載あり	ユニークベニュー等について記載してその重要性は認識してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
42		国内では入手困難なアジアの美術雑誌や図録を閲覧可能にしてほしい。	○記載あり	美術図書の閲覧サービスの提供について記載してその重要性は認識してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
43		視覚障がい者や子ども向けに、質感や形を触って理解できる3Dプリントモデルの設置を検討してほしい。	○記載あり	障がい者の特性にあわせたプログラムの充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
44		夜の美術館に泊まり込み、アジアの話を聴くなどの非日常体験を提供する美術館での宿泊イベントを検討してほしい。	▽その他	非日常感を楽しんでいただける工夫として、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
45		デジタルを活用し、現地の作家のスタジオをVRで訪問できるコンテンツも面白いと思う。	○記載あり	デジタルの活用について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
46		福岡空港や博多駅と連携し、到着ロビー等であじびで見られる作品をライブモニターで映すと誘客につながると思う。	▽その他	ご意見を踏まえ、効果的な情報発信のあり方について検討してまいります。
47	お土産に普段使いできるアジアのテキスタイルを用いたアパレルを展開すると良い。	○記載あり	アジア美術への興味を深めるきっかけとなるようなグッズの開発について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。	

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
48	第4章	川端、天神、舞鶴と機能が分散することで、スタッフの配置や物流などの運営コストが二重・三重にかかる。効率性の観点から、1か所に集約すべきではないか。	□原案どおり	3拠点を結ぶことは、災害時等のリスク分散のみならず、アートのネットワーク構築による周辺施設等への波及効果も期待できますので、ICT等を活用した人的コストの最適化を図りつつ、事業を進めてまいります。
49		既存の福岡市美術館やアジア美術館の現館がある中で、さらに天神のど真ん中に巨大な地下施設を造る必要性を感じない。ソフト面(展示や教育普及)の充実に予算を回すべきだ。	□原案どおり	今回の拡充は、収蔵スペースの課題を踏まえ、貴重なコレクションを市民に公開し、世界に誇る文化資源として活用するというソフト面に寄与するものです。
50		現館(川端)で定着している市民の文化芸術活動の発表枠を、拡充後も維持してほしい。	○記載あり	文化・芸術活動の発表の場の提供について記載してその重要性は認識しており、市民をはじめ、美術活動者の文化発信ができる場を目指してまいります。
51		天神・川端・舞鶴の3施設を共通のパスポートや回遊バス等で一体的に楽しめる工夫をしてほしい。	▽その他	エリアを回遊しやすくなるソフト・ハード両面での施策について、関係各所と検討を進めてまいります。
52		福岡に住むアジア出身の方々が自分の国の文化に親しみ、交流できるコミュニティの拠点としての役割を期待する。	○記載あり	在福アジア人にとっても第三の居場所となるような場の提供と記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
53		仕事帰りの現役世代や夜間の観光客が立ち寄れるよう、早朝や夜間の開館時間を設定してほしい。	○記載あり	ターゲットに合わせた開館時間について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
54		市民が運営をサポートするボランティア制度を拡充し、シビックプライドを醸成する場にしてほしい。	○記載あり	美術館活動をサポートするボランティアの育成について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
55		九州産業大学では博物館浴の取り組みがなされており、アジア美術館が天神の中心という利便性の高い場所へ移転するのを活かして、社会的処方として患者や高齢者のウェルビーイングに役立てばと思う。	○記載あり	高齢者の特性に合わせたプログラムの充実について記載しておりますが、様々な立場の人に合わせたプログラムも含め、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
56		今後の展示についてコレクション展や自主企画展に言及があるが、貸館は継続するか。近年は貸館企画が多すぎて、特に遠方に住んでいる美術関係者は来訪を敬遠しており、アートシーンにおける福岡アジア美術館の存在感低下にも繋がっている。全くなくすべきとまでは言わないが、バランスを是正すべき。	□原案どおり	アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、展示の質とバランスを適正化してまいります。
57		コレクション展は、どこでの開催を見込んでいるのか。距離は短くても輸送は高リスクのためよく検討してほしいと同時に、新館で開催すべきとも考える。人気を集めるばかりでは美術館が商業施設と同じような扱いになってしまうのではないかと懸念しており、現状どのような方針なのか記載がないのは不安。	○記載あり	拡充先においてアジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるようにすると記載しており、今後具体的に検討してまいります。
58		「在福アジア人にとっても第三の居場所となるような場所の提供」とあるが、具体的にどのような施策を考えているのか。排外主義者の声が大きくなる中、多文化共生の手本となるような場所になることを期待している。	□原案どおり	ご意見を参考にしつつ、第三の居場所の在り方を検討してまいります。
59		拡充先とArtist Café Fukuokaが唐突に出てくるので、関係性がわかりにくい。既存のレジデンス活動や発表がArtist Café Fukuokaでもされているなど、それでは不十分であるなど、もう少し丁寧な説明がほしい。またポンチ絵の中に「マーケティング」の言葉があるが、どのような「マーケティング」なのか説明が欲しい。美術市場に関することであれば、公立館が関わることではないと考える。一方、福岡アジア美術館がどういう層に利用されている／されていないのか、利用されていない層にどうアプローチしていくかなど、利用者についてのマーケティング調査は、専門家を雇ってでも必要だと考える。	□原案どおり	各拠点間の相関図や関係性については、本計画を具現化していく過程において、市民の皆様により分かりやすく丁寧な周知に努めてまいります。また、マーケティングは来館者数増に向けたアプローチを意図したもので、公立館としての公共性を堅持しつつ、専門的な視点を取り入れた戦略的な運営を目指してまいります。
60	川端のアジア美術館はこれまで通りの美術館として重要で、収蔵と研究と展示を主な機能としてアジア美術を学術的に深める活動拠点としてあって欲しいが、新しい警固公園の拡充機能には、ぜひプロジェクト単位の長期、中期、コミッションワークの現場として体験型作品を中心に展開してほしい。建築空間と作家作品が常設化されている空間体験作品の組み込まれた地中美術館や金沢21世紀美術館など、多くの集客を集めているのはご存知の通り。しかもそれを恒久設置だけでなく、スケルトン空間にプロジェクトに合わせて長期(5-10年単位)、中期(1-3年程度)で展開する現場と位置付けるのが良い。その選定などに市民やアジア各地の専門家を巻き込むと面白そう。	▽その他	固定化されないプロジェクト空間の創出や、多様な主体が参画する選定の仕組みについて検討してまいります。	

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
61		舞鶴についてはレジデンス機能を充実させつつ、作家が地元のステーキホルダーと濃密な関係を作って行ける半分開いて半分閉じた環境が必要だと感じる。近隣の福岡市美術館や県立美術館と連携して、美術関係者、あるいは支援者、ネットワーク事業者が濃密な信頼関係を築くことができる拠点としての充実をお願いしたい。いわゆるアーツセンターとしての機能を充実させる場であって欲しくて、アウトリーチ、福祉や医療、環境、防災、教育、都市整備、技術開発、知財創造の拠点として作家や企業、自治体の試行錯誤、社会実験の場としてあって欲しいと思う。その意味でも、子どもとの、あるいは障がい者、高齢者などとアーティストとの協働プロジェクトの実践の現場は福岡市内の各所、高齢者施設、病院、学校、福祉施設、そして美術館や文化ホール、劇場や公園、街中の都市施設など様々な現場での実践を期待する。	▽その他	舞鶴の施設が、近隣の施設と連携を図りながら、アーティストと社会の接点となるよういただいた視点を今後の事業展開にいかしてまいります。
62		美術館運営、アートセンター運営、現代美術館運営、スクール事業の運営で一番ネックとなるのは人材確保と予算。その意味でも3箇所の役割分担はしっかりやっておいた方が良いと思う。 川端は調査、研究（近代美術館機能） 警固は観光、プロジェクト実践（現代美術館機能） 舞鶴はアウトリーチ、社会実験（アーツセンター機能） 計画を見ていると展示というフォーマットにこだわっているように見えるが、2000年以降、芸術表現の現場は様々なところに湧き出ており、すでに展示というフォーマットは選択の一つになっていると思う。つまり、現場はネット空間、ゲーム空間、メディア空間であったり、医療、福祉、商業、交通など様々な空間でのプロジェクト型、あるいはフィールドワーク型になっているように感じている。その意味でもアジア美術館の現場は福岡市内、あるいは日本各地、デジタル空間、世界各地と捉えて良いのでは。	▽その他	3拠点の役割分担は今後、検討を進めるとともに、デジタル空間や社会の諸現場を美術館のフィールドと捉える視点は、今後の事業のあり方を検討する上で参考とさせていただきます。
63		ボランティアのすべての活動が警固に移るのか、また一部は現アジア美に残るのか。	▽その他	ボランティア活動につきましては、ご意見を伺いながら、今後詳細を検討してまいります。
64		音声ガイドは、障害のある方の鑑賞には必要かもしれないが、現代美術の作品展示に、パネル、図解を配置するのは、前時代的で作品鑑賞の妨げになる。作品ガイドが捨てられることもあり、配布物のデザイン、クオリティーも検討が必要。展示デザインも含めデザイナーの選定方法にも見直しが必要。	▽その他	幅広い層の方々へ現代美術を楽しんでもらえるよう、情報提示のあり方を検討してまいります。
65	第4章	1999年開館から5回のトリエンナーレ開催だったが、継続ならず、現在に至っている。運営する自治体は変わっておらず、拡充後計画に「継続的開催」と謳っていても、信じがたい。どの程度の期間を持って、継続的開催というのか、開催頻度や期間、規模も明確に提示してほしい。	▽その他	大規模国際展の開催頻度や規模を含めた持続可能な事業形態をどう担保するかについて、現時点での確約は困難ですが、継続的に開催できるよう、議論してまいります。
66		段階的な人材育成には、時間を要する為、国内外へのネットワーク構築も視野に入れ、他館が行っている海外や外部からの学芸スタッフ受入も必須。	○記載あり	調査・研究に関するものにおいて研究者や学芸員の招へいなどを記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
67		集客ばかりを追わず、福岡で培われた人的資源の活用によるネットワーク再構築、継承からの職員、学芸員、キュレーターの育成も検討してほしい。電子機器、機材を使った過去の作品を展示する場合のテクニカルスタッフの人材育成の必要。作品制作当時の技術的知識を有する技術者からの技術継承、継承者の育成も必要。	○記載あり	地域や内外の研究者や専門家との相互協力的なネットワークの広がりについて記載してその重要性は認識しており、ご意見も参考にしつつ、長期的な運営体制を検討してまいります。
68		美術館がレジデンス拠点としての機能を有するとともに、美術館近郊のオルタナティブスペース、アーティストラウンジ等との連携が必要。アーティストカフェも、レジデンス拠点として存続するのであれば、警固、アーティストカフェの2拠点での連携、役割分担が不明確。アーティスト助成という面では、レジデンス事業だけではなく、拠点がなく活動が出来ないアーティストコレクションへ拠点を提供し、滞在作家との連携の場の提供も、美術館の責務と考えられるのではないかと。自治体が運営する美術館として、集客力だけを追うのではなく、アジアのアート拠点となるべく、役割を果たしてほしい。アジア美術館から遠ざかっていた福岡近郊の作家、以前の滞在作家が自由に交流出来るプラットフォームとしてかつての役割を取り戻してほしい。	▽その他	レジデンス拠点や作家の交流拠点などの機能を有し、福岡がアジアのアートの結節点となるため、役割分担・運営体制を検討してまいります。
69		学術的シンポジウムや講演会をライブ配信などの広報も必要であり、専門のスタッフも必要。過去のアーティストトークや秘蔵映像のアーカイブ映像の配信も行ってほしい。	○記載あり	本編50ページの「広報活動の充実・デジタル活用」において、デジタルアーカイブ化について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の参考とさせていただきます。
70		すべての人が拡充先と現館の両方を見るわけではなく、おそらく多くの方は拡充先しか見ないとすれば、アジア美術について偏ったイメージや理解をもたらすのではないかと危惧される。また、現館の展示は、作品現物とのつながりを欠いた展示になりやすく、美術館の展示としての魅力を低下させる恐れがある。そこで、原則として展示機能は拡充先に一元化し、一方で現館には、「見える収蔵庫」として収蔵庫の一部に展示機能を持たせることを提案する。展示の仕方を工夫すれば、美術館に新たな魅力を付加することが可能であり、コレクションの有効活用にもつながると考える。	▽その他	コレクションの有効活用と、来館者に偏りのないアジア美術の魅力を伝えるための工夫に関して、いただいたご意見を参考としつつ、具体的な展示のあり方や施設の役割分担を検討してまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
71		「美術館と地上の公園が一体となって、福岡の新たな顔として、心地よく過ごせる文化的空間を創出する」という項目について、単に魅力発信のためのイベントやパブリックアートのみを増やすことが目的化しないよう求める。公園との一体化は、運営事業者が民間企業であっても、実際には美術館運営者・学芸員との綿密な連携が不可欠になると考える。そのため、現在の案が、すでに多忙な学芸員に追加的な業務負担を過度に課す構造になっていないか、慎重な検討が必要。 また、Park-PFIやBTO方式で成功とは断定できない事例も参照し、長期的なリスク管理を明確に示すべき。 さらに、屋外展示の構想については、まちづくりや集客の観点のみが先行し、内容が軽薄化することのないよう、学芸員と密接に連携した設計とすべき。	▽その他	事業手法については、現時点で手法を確定させるものではなく、今後、最も適切な手法を模索してまいります。また、学芸員と民間事業者との適切な役割分担等を明確にしております。
72		拡充先に導入する展示機能において「アジア現代美術の傑作」を中心に据えたとあるが、その理由を明確に示す必要があると考える。アジア美術の理解は、話題性の高い現代作品のみでは成立しない。後半に記載されている「作品の特性を活かした質の高い展示空間の確保」という方向性は非常に重要であり、こちらをより具体化すべきと考える。	□原案どおり	ご指摘の通り、話題性を優先するのではなく、作品が持つ本来の価値を損なわない質の高い展示空間の確保が肝要であると認識しております。質の高い展示空間の確保について、今後の設計過程で検討してまいります。
73		現館を「歴史的・文化的背景にフォーカスした展示」とする方針について、結果的に話題性のある展示を拡充先に集中させ、現館が副次的な位置づけに固定される印象を受ける。「拡充先での展示内容を補充する」との記載について、その具体的な意味を明確にする必要がある。現館の展示スペースを単なる補助的な展示場所とするのではなく、両館が対等に機能する設計であることを明確にすべき。	□原案どおり	両館がそれぞれの強みを活かして並び立つような拠点づくりを、ご意見を参考にしつつ、検討してまいります。
74		Artist Cafe Fukuoka について、現在のオープンスペースが本来のアーティスト関係者向けの学びや相談の場として十分に機能しているか、改善の余地があると感じる。アート鑑賞を目的としない外国人利用者が増え、空間の趣旨が曖昧になっている印象があった。改めて用途の明確化と運営方針の整備が必要であると同時に、本計画の主要検討施設である拡充先においても同様の状況にならないよう、慎重な設備計画と運営事業者の選定を行うべき。回遊性向上を目指す場合であっても、アート以外を主目的とする利用に過度に偏らない設計が求められる。	▽その他	Artist Cafe Fukuokaについては、ご指摘いただいた意見を参考に運営を検討するとともに、拡充先においても慎重に検討してまいります。
75	第4章	調査研究について、単発的な招聘にとどまらず、「リサーチャー・イン・レジデンス」や「キュレーター・イン・レジデンス」の制度を体系的に導入することを提案する。現時点でこれらの制度を導入しているのは欧米各国の民間であり、アジア美術館という公共施設での導入を図ることによって、アジア美術の研究・発信が多様化・活性化するだけでなく、国際的にも先駆的なモデルとなる可能性がある。また、アジア全域での新進作家の調査・情報収集について、2010年代以降の新規収蔵状況が見えにくい点からも、調査機能の本格的再始動が必要と考える。レジデンス事業と研究機能を連動させ、継続的な人材受け入れ体制を整備すべき。	□原案どおり	公共施設として先駆的なモデルとなり得る制度設計や、近年の動向を踏まえた調査機能の再構築について、いただいたご意見を参考にしております。
76		にぎわい創出や世界発信を掲げること自体には大変賛同するが、記載の「展示機能と一体的に賑わい・集客を図る取組み」が従来のワークショップやイベント、カフェ連動型施策の延長線にとどまるのであれば、本質的な刷新とは言えないのではないか。そのため、実質的な戦略転換とマーケティングの強化が必要だと考える。また、展示の派手化やSNS活用、コラボ大型イベントが結果として美術館機能の形骸化を引き起こさないよう、慎重なバランスが求められる。	○記載あり	マーケティングの強化の必要性については、第1章に記載してその重要性を認識しているところであり、いただいたご意見も参考にしつつ、質の高い運営とバランスの取れた施策展開を検討してまいります。
77		MICE機能の導入については、既存の市内MICE施設との役割分担を明確に示す必要がある。アジア美術館としてどのような独自性を持たせるのか、具体的な説明を求める。企業連携については、収益性の確保が求められる中で、美術館の公共性との両立方法を明確にする必要がある。収益構造とその帰属、公共性の維持について透明性が必要。なお、他都市の事例から、東南アジアの食と文化に焦点を当て、回遊性を意識したイベントを長期的目線で開発していけば、街全体が参加できる面白いものができるのではないかと提案する。在福アジア人にとっての「第三の居場所」構想は非常に意義があるため、教育普及の観点と連動し、アートを通じた包摂的なコミュニティ形成として具体化することを期待する。	○記載あり	周辺の施設や企業等と連携について記載し、また、アジアの文化や食を通じて人々が交流するイベントの企画・実施も記載して、これらの重要性は認識しており、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
78		アジア美術をめぐる福岡アジア美術館の先駆性と長年の蓄積が生み出した厚みが現在弱みに転じている要因は、作品収集、調査・研究交流の原点になっていた福岡アジアトリエンナーレが休止していることにある。現コレクションを「世界に唯一」というカードで内外に称揚し続ける予定ならば、トリエンナーレの再開と購入予算(と人員)増が強く望まれ、単なる展覧会活動の一部ではなく、ぜひ柱に据えていただきたい。 また、世界、アジア各国の文化制作や美術館のあり方を分析すれば、とりわけ東アジア、東南アジア、南アジア地域の美術機関の多くがアジア美が築いた礎と功績に今も大きな尊敬の念をもっていることがわかるはず。市場での取引や集客といった金額や人数に換算されること以外の、本質的な実績を評価し、そこを立脚的にするといった文言を加えていただきたい。	□原案どおり	いただいた視点を今後の事業展開や予算、人員配置を検討する際の参考とし、運営のあり方を具体化してまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
79		3拠点での活動分担イメージが漠然としているため、各館の活動内容(特に川端館の)と連携のイメージの文言化を望む。3つに分かれた分館を運営・経営することは並大抵の苦勞ではないと推測する。特に展示機能が複数館に分かれた場合、作品と人に負荷がかかりすぎることが懸念される。収集保存機能(収蔵庫)を川端館に固定するのならば、コレクションを活用する展示会のたびに警固館とのあいだを美術専用車両で輸送するコストがかかり、何よりコレクションそのものに移動の負荷とリスクを追わせることになる。美術館スタッフの人員不足も大きなポイント。広範囲のアジア圏をカバーするための基本的な専門人材確保と同時に、3箇所に分かれて連携活動する新生・福岡アジア美術館においては、どのような人材をどのような部署に何人程度配属の計画か。具体的な人数は上げずとも、こういう専門スタッフを適切に配備するといった方向性だけでも書かれることを希望する。	□原案どおり	作品管理の専門職など、バックヤードを支える専門人材の確保・配置、ならびに拠点間連携を円滑にする効率的な運営体制の構築について、いただいた視点を参考とし、具体化してまいります。
80		地下駐車場跡の天井高は1、2階とも各約2.3mしかない。スラブを削除して吹抜けにしても合わせて約5mあるかないか。スケルトンから美術館仕様に改造し、諸設備それに天井と床の設置分を差し引くと、ギャラリースペースの天井高を国際基準の最低5m以上を確実に確保できる保証はあるのか、極めて疑問(4m以上5m未満では話にならない)。それが実現できないのであれば、他の条件がどのようなものであっても「警固公園地下」案には賛成できない。	□原案どおり	いただいた視点を今後の設計等に活かしてまいります。
81		拡充先がメインになるのか。そうであれば「いつ」「予算はいくらぐらい」と明記してほしい。市長の任期と関係があるのか。意見もそれによって変わる。	□原案どおり	時期や予算につきましては、今後の具体的な事業手法の検討を経て定まるものであり、現段階では確定しておらず、今後検討してまいります。
82	第4章	そもそも3拠点にすることが魅力向上になるとはあまり思えない。分館などをもった美術館は軒並み苦戦している。3つの拠点の連携がしっかりできるのか、今回の資料では不安。また、図にある「マーケティング」とは公立のミュージアムに求められる機能か。唐突で、説明が不足していると思う。	□原案どおり	3拠点が有機的に繋がるよう、ご意見を参考に、今後検討を進めてまいります。また、マーケティングは来館者数増に向けたアプローチを意図したもので、公立館としての公共性を堅持しつつ、専門的な視点を取り入れた戦略的な運営を目指してまいります。
83		文面のいたるところに「アジア美術」を見せる、体験するなどの言葉が出てくるが、「アジア美術」の「なに」が他の美術と異なっていて、ここで施設を拡充するべきなのか伝わらない。賑わい、集客をメインとするのならばアジ美だけでなく、福岡市美術館や博物館の所蔵品でもいいのではないかと。福岡アジア美術トリエンナーレの再開、また、非開催の年における大型アートイベントの開催に拡充先が使われるというのであれば、集客の面でも納得がいくし、注目も集まるだろう。ソフト=企画の話が見えず、ハードの話ありきで進んでいることへの不安。具体的にアジ美のこれまでのどこを評価して、これからどういうビジョンで進んでいくのか、明記してほしい。	○記載あり	アジア現代美術の最新動向を示す大規模国際展の継続的な開催について記載してその重要性は認識しており、今後検討してまいります。
84		現館が拡充先に比べ、新しい目玉(ビジョン)が見えてこない。拡充する天神の施設とどう連携をするのか、もっと掘り下げてほしい。	□原案どおり	いただいたご意見を参考にして、現館のさらなる魅力向上に向けた具体的な取組みについて、今後検討してまいります。
85		「レジデンス機能の活動や支援」は現時点の活動と同じであるため、拡充先の警固公園地下ができたときのACFの役割はどうなっていくのか、もう少し踏み込んだ考えが出てきてほしい。北側校舎のスタジオ利用も始まると聞いている。現状は、ACF=アジ美、ではないと思っているが、今後、変化が想定されているのか、ビジョンを知りたい。	□原案どおり	Artist Cafe Fukuokaでは滞在制作機能を強化するための改修工事を実施しており、レジデンス活動の支援体制や連携のあり方について、検討してまいります。
86		拡充先のプランだけが詰め込まれており、現館やACFとの連携のビジョンが具体的になっていない。拠点が3ヶ所になるのは危ういと懸念されるなかで、施設相互の連携をしっかりと考えていかなければ、拡充先だけ注目され、それもイベント的に消費される会場となっていくと不安。	○記載あり	3拠点の連携について記載してその重要性は認識しており、互いに魅力を高め合えるような具体的な仕組みづくりについては、これからの事業具体化の中で検討してまいります。
87		記載してあるように、近い将来、教育機関と連携し、アジア美術に関わる教材やプログラムの開発を行い、ボランティアはあくまでも美術館活動をサポートするという形に修正されていくことを願う。	□原案どおり	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
88		Live@Museumに参加し、音楽を楽しんだあとに美術展を見ることで、とても贅沢な時間を過ごせたと感じた。拡充先でもこのようなイベントを開いてもらいたい。	○記載あり	ナイトコンテンツ等について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
89		警固神社に来る観光客の方々をうまく拡充先に誘導できれば良いと思う。	○記載あり	アクセスの考え方を記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
90	第5章	美術作品だけではなく、象徴的なエントランスを目指して訪れる人が来るように頑張っていたいただきたい。	○記載あり	人々を惹きつける高い意匠性を有する施設を整備すると記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
91		外光が入る空間とあるが、作品には日光があたるのは良くないと思われるので、慎重に検討していただきたい。	○記載あり	採光の工夫について記載してその受容性は認識しており、作品に悪影響を与えない環境整備を慎重に検討してまいります。
92		これまでも車が水没したという話は聞いたことがないので大丈夫だとは思いますが、ゲリラ豪雨等にしっかりと備えていただきたい。	○記載あり	浸水対策の考え方を記載してその重要性は認識しており、ご意見は施設拡充等の参考とさせていただきます。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
93		敷地内に車いす使用者用駐車場を整備するとの案が、一般用の駐車場はどうするのか。公園は市民の貴重な憩いのスペースであるため、一般用駐車場は設けないでいただきたい。	■修正	市は附置義務条例の特例等により都心部への自動車交通を削減・抑制する取り組みを進めていることから、以下の文言を追記しました。  <追記> ・天神中心部における交通混雑緩和を図る取組みを踏まえ、一般用の駐車場については、隔地での確保を基本とします。
94		せっかく公園の地下に造るのなら、美術館からも公園を感じられると良いと感じた。	○記載あり	美術館と公園が互いに連携し、一体的に魅力向上を図っていくと記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。
95		拡充先は公共交通機関でアクセスが良好だが、公共交通機関利用時には学童や誘導する教員の負担が大きくなるのではないかと懸念している。また、周辺道路が混雑しており、スクールプログラム等実施時に貸切バスの利用が難しくなるのではないかと懸念もある。	▽その他	バスの乗降場所の確保や来館時の誘導線線の整備など、来館者の安全かつ円滑なアクセスについて検討してまいります。
96		ボランティアの必要人数が増えた場合、補充が可能か心配している。多様な人材が参加できる体制が整っていないため、積極的な関与とサポートをお願いしたい。	○記載あり	美術館活動をサポートするボランティアの育成について記載してその重要性は認識しており、持続可能な美術館運営について検討してまいります。
97		一点の作品と静かに向き合い、瞑想できるような静寂な部屋を設けてほしい。	▽その他	都市の喧騒の中にありながら、静寂の中で作品と対話できる鑑賞環境の整備は、心の豊かさにつながる重要な視点として検討させていただきます。
98		子どもがアジアの色彩や形に触れながら遊べる作家デザインのプレイルームなど、キッズスペースのアート化をはかってほしい。	▽その他	現在もキッズスペースのアート化に取り組んでおりますが、拡充先でもアジアの多様な色彩や造形に幼少期から自然に触れ、感性を育めるようなスペースのあり方を検討してまいります。
99		認知症の方のためのアート対話を行い、作品を媒介に、認知症の方やその家族が交流するケアとしての鑑賞会も意義があると思う。	○記載あり	高齢者の特性に合わせたプログラムの充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
100	第5章	中高生が学校帰りに無料で立ち寄り、アートについて語り合える場をつくれれば、将来の担い手の育成につながるのではないかと。	▽その他	放課後の時間帯を活かしたプログラムなどを検討してまいります。
101		企業の経営者や社員向けに、アジアのアートから創造性を学ぶ研修プログラムの提供するのも面白いかもしれない。	○記載あり	講座やセミナー等のイベントについて記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
102		聴覚障害者向けに、QRコード等で即座に手話解説が見られる仕組みを検討してもらいたい。	○記載あり	障がい者の特性にあわせたプログラムの充実について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
103		市内の歴史・自然スポットにアジアの彫刻を点在させるとおもしろいのではないかと。	▽その他	回遊性を高め、都市の魅力向上につながる視点として参考にさせていただきます。
104		新たな施設においても、チケットを買わなくても入れるスペースを広く設けていただきたい。	○記載あり	有料・無料ゾーンの考え方について記載しており、その重要性は認識しております。
105		展示で使用したパネルや資材を廃棄せず、再利用・リサイクルするサステナブルな展示設営を行ってほしい。	▽その他	展示の質を維持しつつ、環境に優しい資材の選定や設営プロセスの見直しを検討してまいります。
106		地下施設という特性上、豪雨や高潮に備えた止水板や防水扉の設置、重要設備の地上配置など、万全の防災対策を求める。	○記載あり	浸水対策の考え方を記載しており、その重要性は認識しております。
107		地下施設であっても、外光を取り入れる工夫や吹き抜け空間を設けることで、明るく開放的な美術館にしてほしい。	○記載あり	外光が入る空間や開かれた空間を設けることを検討しており、その重要性は認識しております。
108		岩田屋や三越、ソリアプラザ等と連携したアートイベントを行い、天神全体の回遊性を高めてほしい。	○記載あり	周辺施設との連携について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。
109		伝統楽器からノイズミュージックまで、アジアの音に特化した音響展示室の設置を検討してほしい。	▽その他	静かに鑑賞したい方への配慮を前提としつつ、特定の空間において、五感を刺激する現代的なアート体験を創出する手法として参考にさせていただきます。
110		アーティストが監修し、借りるのが楽しくなるようなデザインによる館内専用ベビーカー・車椅子があると良いと思う。	▽その他	館内移動そのものが一つのアトラクションとなるホスピタリティの形として参考にさせていただきます。
111		コレクション展、学芸員の企画展、貸館企画が共存できる空間構成を望む。	▽その他	アジア美術館の多様なコレクションをより魅力的に発信できるよう、展示の質とバランスを適正化してまいります。
112		警固公園との一体整備について、若者やホームレスの方々の居場所を奪わないようにしてほしい。排除の論理はアートとは真逆にある。	□原案どおり	市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出してまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
113		屋外への作品展示について、パーマネント展示は極力行わない方が良い。社会の移り変わりによって人びとのまなざしも変化するため、少なくとも設置見直し可能な仕組みづくりが必要。	▽その他	柔軟に展示の見直しや入れ替えをするなど、持続可能な作品展示を検討してまいります。
114		日光が人に与える影響は大きい。学芸員や事務職員はもとより、監視スタッフやボランティア、アーティストが活動する場所などは日光があたるよう配慮を強く望む。	○記載あり	採光の工夫について記載してその重要性は認識しており、スタッフやアーティストが健やかに活動できる空間構成を目指し、設計上の配慮に努めてまいります。
115		福岡アジア美術館天神拡張については、既存館の機能を単純に複製するのではなく、天神という都市環境と地下空間の特性を活かした、「アジア都市文化の現在進行形」を体験できる拠点として整備することが望ましいと考える。特に、基本計画で示されている「交流」「創造」「市民に開かれた文化拠点」という方針を踏まえ、公開収蔵庫、制作過程を見せる工房、都市文化ライブラリーなどを導入し、「文化が生成される過程」を市民に開く施設とすることで、福岡独自の公共文化拠点形成につながると考える。	□原案どおり	3拠点が連携し、相乗効果を発揮できるよう、検討してまいります。
116		天神拡張では、既存館との差別化として、現代アートやインスタレーションに特化した実験的な展示空間の整備が望ましい。特に地下空間の特性を活かし、映像、音響、光、空間演出などを用いた大型インスタレーションや没入型展示を展開することで、福岡独自の文化発信につながると考える。挙げられる。都市と接続した実験的展示空間として構想することが重要である。	□原案どおり	立体やインスタレーションなどの大型作品をダイナミックに展示できる空間を備えた展示室について記載してその重要性は認識しており、ご意見を参考に具体化を図ってまいります。
117		アジア都市文化ライブラリー機能を併設し、雑誌、ポスター、建築、映画、音楽、屋台文化など、アジアの都市文化資料を横断的に収集・公開することが望ましい。また、地下空間だけでなく地上空間も活用し、公開制作、トーク、マーケット、屋台的な仮設空間を展開することで、街との連続性を生み出すことが重要である。提案として、アジア各国の屋台を集めた「屋台マルシェ」の導入も考えられる。展示だけでなく実際に屋台を運用し賑わいを生み出すことで、福岡の路上文化とアジアの都市文化を接続する重要なコンテンツとなり得る。	▽その他	アジアの都市文化を示していくことも重要な活動の一つだと認識しており、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
118	第5章	このままの要件で出してしまうと何ら他の美術館と変わらないコスト高の差別化されない空間しかできないような気がする。川端がそのまま収蔵と研究、研究発表としての展示機能を保持するとすれば、警固はもっと一般に開いた公共空間として、公園の延長の空間として整備し、都市の余白、長期プロジェクトで自立可能な空間が確保できる仕組みを建築要件に入れるとすればいいのになと思う。市民の展示などは90年代に福岡で実践していたミュージアムシティプロジェクトの発想で、デジタルサイネージやヒルボードの作品化、複合施設の中の余白化など都心部全体が市民協働のプロジェクト実践の展示空間になるようになれば都市の独自性と魅力が高まる。そのためにも中途半端な市民ギャラリーなどは作らず、コーディネーターやマーケティング担当を設置する方が重要かと思う。	□原案どおり	マーケティングについては記載してその重要性は認識しております。また、市民の憩いの場である警固公園と、連携、一体化しながら、誰もが憩える魅力的な文化的空間を創出してまいります。
119		「まとまった広場空間」は、単にフラットな部分だけをさすように見える。周辺のベンチなどの憩いの空間も含めた広場空間とすべき。	■修正	「まとまった広場空間」については、フラットな部分だけを指すものではございませんので、以下の文言を追記しました。 <追記> ※広場空間には周辺のベンチ等も含む
120		ボランティア室には、共用のPC、スキャナー、コピー機などを取りそろえ、スムーズで活動しやすい環境を整えていただきたい。	▽その他	ボランティア室の機材等につきましては、ご意見を伺いながら、今後詳細を検討してまいります。
121		周辺施設や企業との連携は重要だが、それが単なるまちづくり施策にまともなよう、アジア美術との出会い、学びに一貫する設計が必要。回遊性向上の主導権がどこにあるのか、また、美術館関係者が行政と民間の間で過度に負担を負う構造にならないかを慎重に検討すべき。他館を参考にしつつ、学芸員のみならずの専門性が十分に尊重される運営体制であることを強く求める。	▽その他	現場の専門性が尊重される運営体制の確立に努めてまいります。
122		エントランス空間に「桧原桜物語」を添えた「進藤一馬元市長像」の配置と「桜の植樹」を提案する。進藤元市長は福岡市美の新設に尽力され、既に市美には像があり、アジアを視野に入れた福岡の文化行政の歩みと静かに繋がっている。桜の存在や季節の変化の中で、静かな時間の流れや空間の奥行きが感じられる場となることを期待する。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
123		福岡の近現代史には多様な背景があり、アジアとの関係を多角的に捉える場である美術館にとって、今後ますます重要な視点になると考える。来館者が多様な視点から歴史や文化を考える契機となるよう、適切な情報提示と表現の工夫がなされることを期待する。本計画が単なる施設整備にとどまらず、市民の記憶、都市の歴史、そしてアジアとの関係性に静かに触れることのできる場として展開されることを願う。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
124		浸水対策の考え方について、美術館の機能について関わったことがある人なら誰しも案ずるところだと思う。ハザードマップを見ても、警固公園は水の影響を受けやすい場所。リスクが高い施設に高名な美術館から重要な作品を借りてきて展示することは、相当ハードルが高くなると思われる。地上に仮の保管庫を作る案が書かれていたが、市博のリニューアルは流れた中、それだけのきちんとした施設にする余裕があるか。貴重な作品の保全や管理にむけ、十分な検討(大幅な企画修正を含めて)をお願いしたい。	○記載あり	浸水対策については、整備計画の項目にも記載してその重要性は認識しており、国内外の地下建築の事例も参考にしつつ、今後の設計過程で検討してまいります。

連番	分類	意見要旨	区分	対応案	
125	第6章	警固公園地下駐車場の躯体を再利用することは、環境負荷の低減につながるため、持続可能な開発として評価したい。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	
126		福岡の新たな顔となるよう、地上部分には福岡の独自性とアートを感じさせる象徴的なデザインが確かに重要だと思う。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	
127		感覚過敏の方や鑑賞後に気持ちを落ち着かせるための休息が必要な方が安心して利用できる専用スペースの設置計画を支持する。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	
128		Art Fair Asia Fukuoka等のアートイベントとの連携を強め、作品を買う・支えるという文化の醸成に寄与してほしい。	▽その他	アーティストの活動を持続的に支える仕組みづくりに寄与することは、本市の文化経済の活性化にも繋がると考え、連携のあり方を模索してまいります。	
129		インフルエンサーだけでなく、一般のファンをアンバサダーとすることで広報に寄与するのではないかと。	○記載あり	SNS等を活用した広報について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。	
130		DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、チケット購入のキャッシュレス化や混雑状況の可視化などで利便性を高めてほしい。	○記載あり	デジタルの活用について記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考にさせていただきます。	
131		夜間開館やユニークベニューとしての活用とあるが、過度に商業的にならないことを望む。また、イベントが増えることと関連して、本来業務には当たらない業務により職員の負担が増えることには反対する。	○記載あり	多様な利活用を図るサービスの提供は民間のノウハウを期待できるものと記載してその重要性は認識しており、ご意見は今後の施設拡充等の参考とさせていただきます。	
132		広告収入などで収入確保に努めるとあるが、公共施設の在り方として、来場者や地域の企業、団体、一般市民から広く寄付を募る努力も必要ではないかと。	□原案どおり	多様な財源確保は、健全な運営に不可欠であると認識しており、いただいたご意見を参考に、検討してまいります。	
133		ここ数年、作品の価格が購入時からこんなに上がったなど金銭的価値に重きを置くようなPRがされているが、美術館という施設がPRすべきはそこではない。	▽その他	美術館の本旨は作品の歴史的・芸術的価値を伝えることにあり、評価額の変化はあくまでその一側面と認識しております。今後はより深く作品の本質や魅力を発信できるよう、PRのあり方を精査してまいります。	
134		広報活動の充実とあるが、外部にPRを依頼する場合、条件や基準は内部で設定されているのか疑問。契約前のリファレンスチェックは怠らないように、また、外部に依頼したSNSのPR広告の効果測定はシビアに行うべきだと考える。	▽その他	広報活動にあたっては、その効果測定も含め、実効性のある広報を進めてまいります。	
135		事業に対してどのような組織体制、人員、専門人材が必要かなど、職員に関わるものが全く示されていない。	□原案どおり	本計画案は拡充先の枠組みを定めるものであり、具体的な組織構成や専門人材の確保については、事業の具体化に合わせ、実現可能な体制を別途検討してまいります。	
136		開館時間の拡張について、公園利用時間との連動は理解できるが、夜間の常時開館には慎重に検討を進めるべき。常態化する場合は十分なセキュリティ体制が不可欠。頻度やスペースの限定とそのルール化、監視体制の強化、安全管理の具体化を計画段階で明示すべき。	○記載あり	万全なセキュリティ体制を確保すると記載してその重要性は認識しており、いただいたご意見を踏まえ、監視体制の強化や利用ルールの周知徹底など、検討してまいります。	
137		第7章	事業手法の特徴の書き方を揃えた方がわかりやすくなるのではないかと。	■修正	他の方式の特徴の書き方と合わせ、文言を以下の通り修正しました。  <修正前> ・民間事業者が資金を調達し、施設建設後、公共に所有権を移転して、民間事業者が維持管理、運営する方式。  <修正後> ・資金調達は民間が行い、設計、工事、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。
138			美術館のボランティアは他の一般的な公的機関のボランティアとは違い、交通費もなく全くの無償で行っているため、ボランティアが役割分担の中の収益を得ている民間のカテゴリーには入らないということも、ご承知おきいただきたい。	▽その他	ご指摘の点は改めて受け止め、ボランティア活動の充実と適正化に向けて、努めてまいります。
139			過去に行ったPFI事業の中には、効率的な運営がなされていないと思われるものがあることから、PFI方式は止めてほしい。市予算会議会でしっかり事業計画を、必要性をゼロベースから考えることも含め、資金繰りも議論する方がよいと考える。	○記載あり	事業手法については、現時点で手法を確定させるのではなく、今後、最も適切な手法を模索してまいります。
140			官民の役割分担イメージに民間のノウハウ活用とあるが、民間とはどういった対象なのか、イメージが浮かばない。対象となる民間団体に関して、もうすこし、具体的な例を示してほしい。	□原案どおり	多種多様なパートナーを想定しており、今後の事業手法の検討の中で具体化してまいります。
141	接遇サービスや集客促進において、民間の創意工夫を積極的に取り入れる事業手法を支持する。		▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。	

連番	分類	意見要旨	区分	対応案
142	その他	天神地区の駐車場容量が減り、車で行くことが不便になるが、その対策はどうするのか。ロンドン等では市中心部に乗り入れる車を減らすため入域料金等が設定されている一方、福岡市では市中心部に入る車を減らす施策は特に行われていないと思う。車社会変革のため駐車場を廃止し、その場所を別の用途に使用するという意味があるが、本計画案は車社会変革とは関係ないようで、ちぐはぐでいきあたりばつりに見える。警固公園地下駐車場を、現状のまま存続して欲しい。	□原案どおり	福岡市は附置義務条例の特例等により都心部への自動車交通を削減・抑制する取り組みを進めており、当該駐車場は、NEXCO西日本が設備の老朽化などから安定的な事業継続が困難であったことから、令和8年3月31日に廃止されております。
143		本計画の出所はどこか。市長か、あるいは地元経済界か。	▽その他	本計画は、アジア美術館魅力向上検討担当が編集発行しております。
144		昨今、全国で過去に建設された美術館や公共施設の老朽化、維持が困難になる問題がたくさんある。警固公園地下駐車場の売り上げは多かっと思われ、施設の維持にはあまり困らなかつたと推定される。一方、美術館を作り、入場券を購入する来館者が少ないと、少なくとも駐車場を上回る売り上げが出ないと、施設の維持が難しくなると予想される。現アジア美術館の年間利用者数と収益金額はどれくらいか。現館の計画時に目標とされた年間利用者数と収益金額はどれくらいか。計画案に示された新美術館の年間利用者数目標と収益金額目標はどれくらいか？	▽その他	福岡市は附置義務条例の特例等により都心部への自動車交通を削減・抑制する取り組みを進めており、当該駐車場は、NEXCO西日本が設備の老朽化などから安定的な事業継続が困難であったことから、令和8年3月31日に廃止されております。現時点での実績値は、年間入館者数が平成11年の約25.8万人から約38万人に増加しており、歳入は約4千万円(令和6年度)です。今後の目標については、市美術館などを参考にしつつ、基本設計等の進捗に伴い、具体化してまいります。
145		計画案には、金額が全く記載されておらず、そもそも、計画案の賛否を考慮の上で最も基礎となる情報が欠落している。工事の入札にもかかわることであり、公表できない部分もあるだろうが、金額は最重要。事業の予算はどのくらいか。	□原案どおり	予算につきましては、今後の具体的な事業手法の検討を経て定まるものであり、現段階では確定しておらず、今後検討してまいります。
146		昨今、物価上昇で、工事金額も上昇している。建設工事が遅れたり先延ばしになったりすれば、工事金額が増加することが予想される。工事～完成～開館までの予定日程を教えてください。	□原案どおり	予定日程につきましては、今後の具体的な事業手法の検討を経て定まるものであり、現段階では確定しておらず、今後検討してまいります。
147		現アジア美術館も何らかの改修工事が行われると推定され、無料では済まない。また、集客に関しては、警固公園地下部が多くなると考えられる。現アジア美術館は来客がなくなり、収益を生まないとすると、維持管理費の原資はどこから出るのか。	○記載あり	持続可能で自立性の高い運営体制について記載してその重要性は認識しており、今後検討してまいります。
148		リバレインの拡充の検討がなぜ「低層階」だけなのか。9階以上の上層階が、買収を含めなぜ「選定の前提条件」に入っていないのか。上層階を念頭にした現在地での拡充も様々な角度から専門家を交え時間をかけて検討すべきではないのか。警固公園地下駐車場跡の再利用を優先した公園自体の再開発と、アジア美術館の拡充問題を強引に結び付ける必要はない。	○記載あり	施設の課題において、複合ビルの上層階に位置していることで、気軽に立ち寄り場所と認識されていないことを記載しております。
149		展示される内容が同じであれば、施設の魅力だけを向上させても、来館者の数は変わらない。天神に新しい施設ができ、現在のアジア美術館の同様の展示内容であれば、現在の川端の来館者が減り、地理的な利便性の高い天神の新しい施設に集中することが予想される。魅力向上ということであれば、多くの人々が観たいと思う作品を揃える施策が必要ではないかと考える。	○記載あり	アジア近現代の美術作品の系統的な収集について記載して重要性は認識しており、ご意見は今後の参考にさせていただきます。
150		若い世代は福岡のアート戦略に大きな期待を持っている。福岡市美術館と福岡アジア美術館が世界に先駆けてアジア美術を調査し、歴史を作った。いまや国内外でアジア美術は注目を集めているが、福岡は2014年以降の福岡アジア美術トリエンナーレ開催が止まったことで、残念ながら2周、3周遅れになっており、もったいない。学芸員たちの知見が、拡充先の案にきちんと応用されていき、世界各地に増えたアジア美術のミュージアムやアート団体と連携し、福岡がそのアジアのアート拠点のひとつとして、ふたたび生き生きと活動することを願っている。	▽その他	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。